

企画展  
はじめての古美術鑑賞  
美術のなかの文字

Museum Collection Exhibition  
Introduction to Traditional Art:  
Writing in Works of Art



【仏画にも文字】



【器物に記された文字】



【落款と鑑蔵印】



【景色の中の和歌】

上段／文字絵十一面観音像 大臨晋城筆 日本・江戸時代 嘉永6年(1853) 根津美術館蔵 福島静子氏寄贈 右下／吉野龍田図屏風(部分) 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵  
下中央／富士山図(部分) 狩野安信筆 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵 左下／呉州青絵赤壁図録(部分) 中国・明時代 17世紀 根津美術館蔵

近世の特定の画家に焦点を当てた展覧会が話題となる一方で、東洋古美術は西洋美術にくらべてむずかしい、あるいはなんとなく敷居が高い、という声があいかわらず少なくないのが実情です。こうした声にこたえて、当館では2016年の「はじめての古美術鑑賞 一絵画の技法と表現一」を皮切りに、「紙の装飾」(2017年)、「漆の装飾と技法」(2018年)、「絵画のテーマ」(2019年)、「人をえがく」(2021年)、「写経と墨蹟」(2025年)など、古美術の技法やテーマをやさしく解説する企画展示「はじめての古美術鑑賞」シリーズを6回開催してきました。

今回は「よめない」と敬遠されがちな書そのものの作品からあえて離れて、画家の署名・印章(落款)や所蔵を意味する鑑蔵印、自筆・他筆によって加えられた詩文や和歌の賛、屏風絵や絵巻の景色の中に組み込まれた和歌、仏画のなかの文字、銘文、文房具や器物に記されたや詩歌や吉祥の文字など、「美術のなかの文字」に注目してみました。

景色の中に和歌一首が散らし書きされた当館所蔵の「鏡山図」(鎌倉時代)を、類品3幅とともに初めて同時公開するのも一つの見どころとなるでしょう。

この展覧会を通して「美術のなかの文字」がいかに大切かを実感していただき、みなさまと東洋古美術とを少しでも近づけることができたらうれしく思います。

2026年 5月30日(土)～7月12日(日)

日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

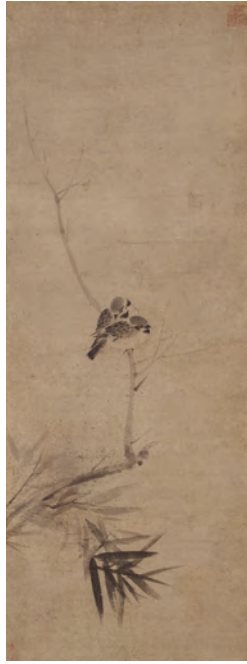
根津美術館  
NEZU MUSEUM



【落款と鑑蔵印】

絵のなかにある文字で、第一に重要なのは画家の落款（署名や印）である。しかし、仏画をはじめ古い絵画には無落款のものが多い上、捺された印が將軍や大名などが所蔵したことを示す鑑蔵印のこともあるので要注意。

重要文化財  
ちくじやくす もつけい  
竹雀図 伝 牧谿筆  
1 幅 紙本墨画  
中国・元時代 13 世紀  
※5月30日(土)～  
6月21日(日) 展示



【賛】

絵の上部や空間に書き込まれた詩文や和歌などを賛という。多くは依頼された他人が書いたもので、画家がみずから記したものは自画賛。室町時代に流行した詩画軸の中には、30 人もの禅僧が賛を加えた作品もあった。

重要文化財  
こうてんえんい ず  
江天遠意図  
しゅうぶん たいがくしゅうすう  
伝 周文筆 大岳周崇ほか 11 僧賛  
1 幅 紙本墨画淡彩  
日本・室町時代 15 世紀  
※6月23日(火)～  
7月12日(日) 展示



【景色のなかの和歌】

描かれた名所や景物に合わせて和歌を詠み、それを絵の中に書き込むことが平安時代中期に流行した。そうした伝統をふまえた、絵と和歌の二重奏ともよぶべき作品が、鎌倉時代の絵巻や近世の屏風絵のなかにみられる。本展では「鏡山図」を含む類品 4 幅（「草花図」、「紅梅図」、「海浜図」）をはじめて同時公開。



かがみやます  
鏡山図  
1 幅 紙本着色  
日本・鎌倉時代 13～14 世紀



よしの たつた ずびょうぶ  
吉野龍田図屏風 (左隻) 伝 狩野山楽筆  
かのう さんらく  
6 曲 1 双 紙本金地着色 日本・江戸時代 17 世紀

【仏画にも文字】

仏画に書き込まれる文字には經典からの引用や、多数の尊像を見分けるための名札などがあり、種子とよばれる梵字が用いられることもある。江戸時代には経文を書き連ねて仏菩薩や五百羅漢などをあらわすことも行われた。

も じ えじゅういちめんくわんのんぞう  
文字絵十一面観音像  
たいりんしんじょう  
大臨普城筆  
1 幅 紙本墨画  
日本・江戸時代 嘉永 6 年 (1853)



観音が乗る雲や龍も文字で

## 【銘文】

絵画の落款に相当するのが工芸の銘文。その歴史は中国古代の青銅器にまでさかのぼる。作者や所有者の名だけでなく、制作の目的や出資者、用いる場所などを表記したものもあり、その作品の来歴を知る重要な鍵となる。



重要文化財  
あられじまつめず しんなりがま  
霰地松梅図真形釜  
あしや おおえのぶひで  
芦屋 大江宣秀作  
1口 鉄  
日本・室町時代 永正14年(1517)

## 【器物に記された文字】

身のまわりの道具や器にも文字がある。とくに文房具には詩歌をデザインしたものが多い。なかには、絵の中に隠した数文字から1首の和歌を連想させるものもある。「寿」「福」などの文字は器に吉祥文としてデザインされた。



重要文化財  
はなのしらかわまきえすずりぼこ  
花白河蒔絵硯箱  
1合 木胎漆塗  
日本・室町時代 15世紀  
※5月30日(土)～6月21日(日) 展示

## 関連催事

### スライドレクチャー (事前申込制)

担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。

日時：2026年6月12日(金)、6月26日(金) いずれも11時30分～12時15分

※2回とも同内容です。

会場：根津美術館 講堂

※2026年5月12日[火] 午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。

## 同時開催展

### 展示室5 うた、ものがたりと蒔絵

蒔絵の意匠には、和歌や謡曲、物語を主題とした作品が多く見られます。ストーリーが一目で理解できる、その優れたデザインをお楽しみいただきます。



うたいよせまきえ さげじゅう  
謡寄蒔絵提重  
1基 木胎漆塗  
日本・江戸時代 19世紀

全体に散らされた、合計49面もの扇面の中にあらわされているのは謡曲意匠。タイトルも添えられ、各演目の表象を知ることができる貴重な作例。

### 展示室6 涼一味の茶

蒸し暑いこの季節、茶の湯では道具に工夫を凝らすことで、清々しさを演出します。涼感をもたらす季節の茶道具約20件の取り合わせ。



ほうか れんげ もんみずさし  
法花蓮華文水指  
1口  
中国・明時代 16世紀

「洗」とよばれる口が大きくひらいた器を、日本で茶の湯の水指に見立てたもの。輪郭を盛り上げて色釉を加え、蓮の花をあらわしている。

## 展覧会名 企画展 はじめての古美術鑑賞 ―美術のなかの文字―

### 日時指定予約制

スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。(招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)

主催 根津美術館

開催期間 2026年5月30日 [土]～7月12日 [日]

開館時間 午前10時～午後5時(最終入館 午後4時30分)

休館日 毎週月曜日

入館料 本展より、企画展の入館料を以下の通り改定いたします。

オンライン日時指定予約 一般 1400円 / 学生(大学生以上) 600円  
 当日券(当館受付で販売) 一般 1600円 / 学生(大学生以上) 800円

- ・ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券は購入までお待ちいただくことがあります。また混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。
- ・障害者手帳提示者及び同伴者1名は上記料金から200円引き。高校生以下は無料ですが学生証の提示が必要です。
- ・2026年5月12日 [火] 午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
- ・オンラインでのご予約は1グループ10名までとさせていただきます。詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車 A5 出口(階段)より徒歩8分、B4 出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3 出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問い合わせ Tel. 03-3400-2536 (代表)  
 website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の  
 お問い合わせ 学芸部 広報課 所/村岡  
 Tel. 03-3400-2538 (直通) e-mail: [press@nezu-muse.or.jp](mailto:press@nezu-muse.or.jp)

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へどうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

## 企画展 やきもの名品紀行 ―中国・日本・朝鮮半島―

2026年8月15日 [土]～10月12日 [月・祝] (7月13日[月]～8月14日[金]は設備整備・展示替えのため全館休館)

2,300件におよぶ館蔵の陶磁器から名品を選びすぐり。3つの展示室を巡って、中国、日本、朝鮮半島、それぞれの地域の陶磁器の多彩な魅力をお楽しみください。



左から：

- ・三彩鏡 中国・唐時代 8世紀
- ・重要文化財 鏤絵染付金彩絵替土器皿 京都 尾形乾山作 日本・江戸時代 18世紀
- ・粉青搔落牡丹文扁壺 朝鮮半島・朝鮮時代 15世紀 秋山順一氏寄贈 いずれも根津美術館蔵

\*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2026.3.)